

# しん なか がわ 新 中 川

江戸川区は、河川に囲まれた低地帯にあり、絶えず洪水に悩まされてきました。西に旧中川、荒川、東に江戸川が流れ、南に東京湾が広がっています。そして、区の中央部を葛飾区高砂<sup>たかさご</sup>から南北に流れる新中川は、以前は「新中川放水路」とよばれていました。名前からもわかるように人の手により掘削<sup>くつきく</sup>された川です。

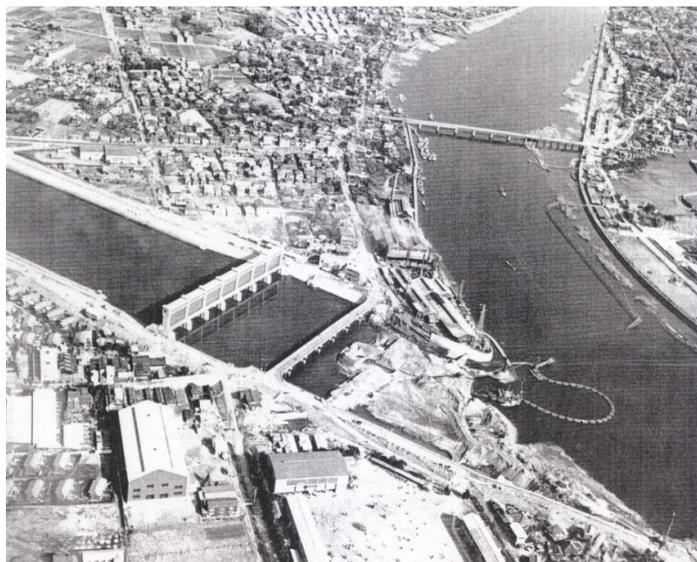


新中川の掘削風景

中川の上流、いわゆる古利根川<sup>ことねがわ</sup>の流域には埼玉県の農業地帯がひらけ、また中川の沿岸には、足立・葛飾・江戸川の各区が発展してきました。しかし、ひとたび大雨に降られると洪水が発生し沿岸地帯は大きな被害をうけました。中川改修工事が大正5年(1916)～昭和8年(1933)に行われましたが、その

あとも洪水の被害は後を絶ちませんでした。

そこで、中川・綾瀬川・芝川の総合改修増補計画が立てられ、中川に昭和6年(1931)に掘削された中川放水路(現中川)とは別の新しい放水路をつくることになりました。昭和16年(1941)から用地買収、工事に入りましたが、太平洋戦争が激しくなった昭和



昭和38年(1963)3月16日新中川放水路開通

## 江戸川区郷土資料室

19年(1944)末に一時中断しました。工事の再開は同22年(1947)9月のカスリン台風の被害が利根川水系全域にわたるなど予想以上に大きく、放水路の必要性があらためて認識されたことによります。治水に重点をおき、葛飾区高砂一丁目と二丁目の間で中川から分疏し、江戸川区の中

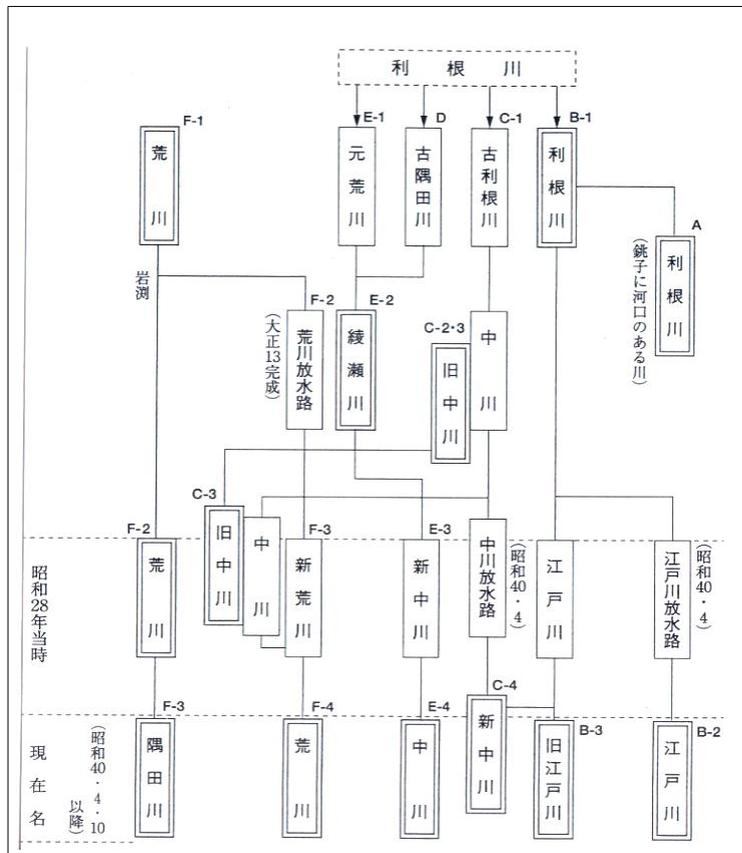


新中川の流れ 昭和40年代(1965)

中央を流れて江戸川四丁目先で旧江戸川に合流する8,180mの新放水路の開削とその上流部6,058mの幅員<sup>ふくいんかくちょう</sup>拡張を第一期工事として、昭和24年に再開しました。同38年(1963)3月16日、今井水門の工事が竣工し、新中川放水路(現新中川)の工事がようやく完了しました(延長8,884m、幅員123m)。この新中川の完成により、流域の人々は洪水の不安から解放されることとなりました。同41年(1966)にはかつての中川を旧中川、中川放水路を中川、新中川

放水路を新中川と改称<sup>かいしょう</sup>しました。同時に荒川放水路も荒川と改称しました。

左図は、古利根川河口の川の名と流路の変化を整理した図です。荒川を例にとると放水路ができたのが大正13年(1924)です。それが「新荒川」となり、現在は「荒川本流」となりました。二重の枠のついたものが、現在の河川名です。



『江戸・東京の川と水辺の事典』  
鈴木理生編著・柏書房より抜粋

## 江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階  
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)